

今、改めて薪を燃やす

「スカウティング・フォア・ボーイズ」より
火の起こし方については、耳学問は役に立たない。
(中略)自分でたき木を積み、火をつける練習をする以外に覚える方法はない。



いよいよ迫ってきた15NJでは、炊事用に薪を使います。薪をうまく使って火を焚ければ、料理に腕をふるえるし、腹ペコの仲間を待たせることもありません。そこで、上手な料理、上手な焚き火のスタートラインになる、「使える薪」の作り方と注意点、そして、誰でもきっと熱くなる「火起こしゲーム」をご紹介します。

1 ナタや片手オノ(ハンドアックス)を使い、炊事に使える薪にする

- ※15NJでは、炊事用燃料として下記のような薪を配給します。
- 間伐材、徐伐材を使用した雑木(広葉樹)50%とスギ・ヒノキ(針葉樹)50%の混合
- 長さ約30cm、太さ一辺約8cm

このままでは火がつかないので、

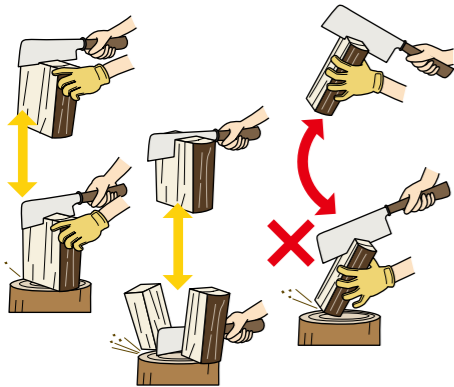
- ①縦に割って細くする
- ②周囲に切れ込み(ナタ目)を入れる

の、どちらかで薪を燃えやすくします。

配給されるのは大きな薪ではないので、ナタやオノを振りかぶって、力を込めて一気に割るといったことはしなくてよい。

①縦に割って細くする場合

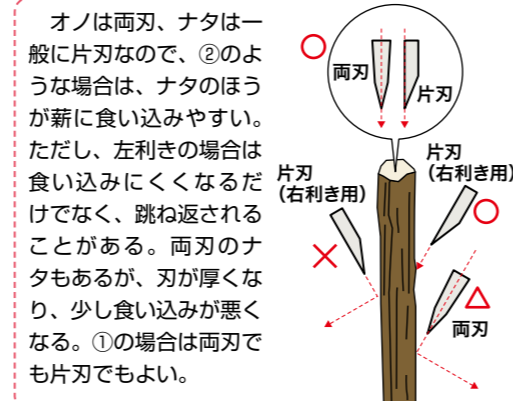
- まず両手で薪の頭に刃を食い込ませて、薪から手を離し、薪ごと地面に打ち付けて、少しずつ割っていか、刃の厚い両刃のナタなら、割る薪を地面に立てて、別の薪で刃の背を叩いて割っていく方法がある。
- 最初に刃を食い込ませたら、後は薪を持たない。危ない。



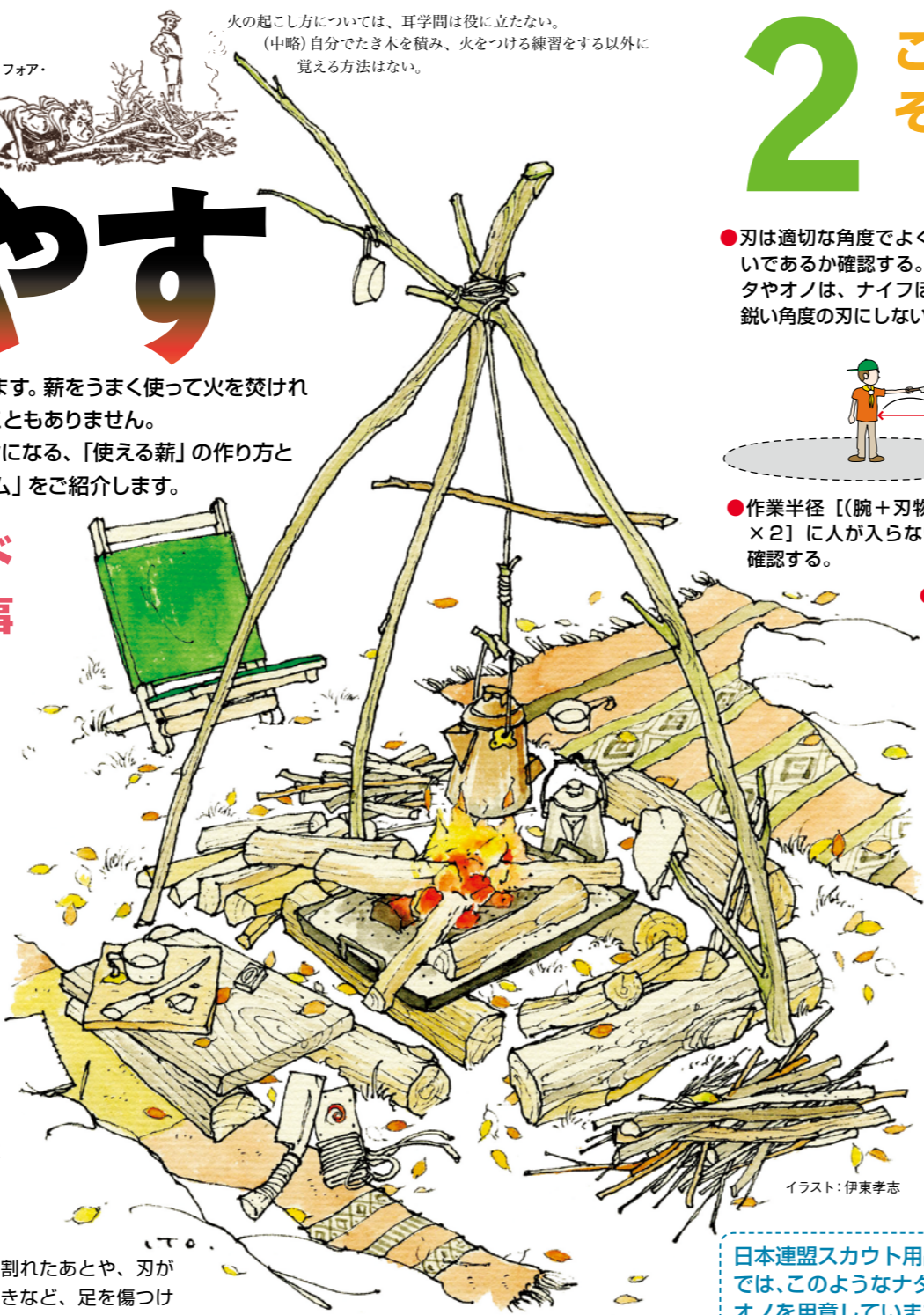
- 低い姿勢で作業する。割れたあとや、刃が木の表面に弾かれたときなど、足を傷つけないように、最後まで、刃が下を向いているようにするため。
- 刃が地面に当たらず、刃先が割れないよう、下に薪や板(ナタ台)を置いておく。

②周囲に切れ込み(ナタ目)を入れる場合

- 必ず、食い込ませようとする所の反対側の上を持つ。
- さらに細かくして、「焚きつけ」にするときは、ナタをナイフのように使うこともある。ナタの柄に近い部分だけ、刃を鋭く研ぎ上げておくとう便利。



B-Pもおすすめの火付け棒。乾いた木で作る。
〔スカウティング・フォア・ボーイズ〕より



2 こんなところに注意！ そしてもしもの場合には!?

- 刃は適切な角度でよく研いでいるか確認する。ナタやオノは、ナイフほど鋭い角度の刃にしない。
- 使わないときは直接地面に置かない。サヤに入れておく。
- 人に渡すときは、柄を上にして、刃を外側にして渡す。
- 作業半径〔腕+刃物の長さ〕×2に人が入らないように確認する。
- 思わぬ怪我を防ぐために、かならず、靴を履く。
- ナタやオノの柄と刃が緩んでいないか確認する。
- 人に渡すときは、柄を上にして、刃を外側にして渡す。
- ネッカチーフ、ゆるい服の袖や裾、フードの紐などが引っかからないように注意する。
- 刃物を持つ手は、すべらないように、素手が良い。もう一方の手は手袋をすると良い。

※切り傷の手当て

- 傷が深くない場合は、きれいな水でよく洗浄し、清潔なガーゼを当て、必要なら包帯をしておく。
- 大きな傷の場合は、出血量に驚かず、確実な止血を手早く行い、安全に速やかに救護所などに運ぶ。

※とげの抜きかた

- 木片の太いとげなどが刺さった場合は、あてて爪などで引き抜くと、雑菌が入って不潔だ。両手をよく洗ってか

ら清潔な毛抜きなどで抜くようにする。
●とげが折れて中に残っていないか確認し、血液を絞り出し、傷口をきれいな水で洗浄しておく。

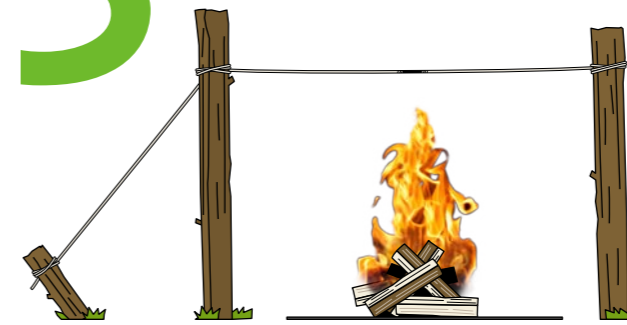
切り傷にも刺し傷にも消毒液を使う必要はない。また、乾燥させないほうが、治りが早い。どちらの場合も「清潔に扱う」ことがもっとも大切で、清潔な包帯、三角巾、器具などを用いる。処理を行う者は、できればビニール手袋を使い、なければ手指をよく洗う。

①刃物の携行と管理・保管

- 活動の場所に刃物を持っていくときは、刃がサヤなどから抜けないように、安全を確認してから、リュックサック、備品箱などに納めて運ぶ。現場以外では出さない。
- 活動現場であっても、その刃物が必要でない場合は、携帯しない。
- 個人の刃物は各人が責任を持って管理・保管し、班や隊の備品は、班長・隊長のもと管理責任者を決めて、管理・保管する。



3 「火起こしゲーム」に熱くなれ



参考

第14回日本ジャンボリーでのルール

- 規定の薪を使用して、着火剤(新聞紙)を用いず、マッチ5本以内で火を起こし、45cmの高さの紐を焼き切る時間を競う。
- ①薪の種類・本数:ジャンボリーで配給される薪と同等の物。本数は5本以内。薪組みの高さは35cm以内。
- ②マッチ本数:5本以内(2本以内で起こすことが望ましい)
- ③使用する用具:ナタ、オノ、ナイフなど
- ④紐の種類:麻紐(紐目の物1mm程度)。ただし、決勝戦では太紐(2mm程度)を用いる。
- ⑤直火は厳禁。

ウチワ、火吹き竹などがあると便利だ。



同じ薪と決められた本数のマッチを使って、紐を焼き切ったり、湯を沸かすスピードを競うコンテストだ。

ポイントは、①薪の大きさと組み方、②マッチの使い方(点火)、③風(空気)の送りかただ。紐を切るか、湯を沸かすかで炎の大きさが違ってくる。木の種類をどのような順番で使うかも考えて練習してみよう。

また、たとえば、バイアスロン競技のように、使用したマッチの本数が多ければ、時間を加えるなど、もっと熱戦になる新ルール、追加ルールはないだろうか。グッド・アイデアがあれば、ぜひ「スカウティング」編集部へ!

パワーかスピードか!?(木の種類による比較)

	火持ち	火付き	火力
クヌギ 広	○	—	○
ケヤキ 広	○	—	—
スギ 針	×	○	—
ヒノキ 針	×	○	—

広:広葉樹 針:針葉樹

- 堅くて重い(比重の高い)広葉樹は火持ちが良い。逆に比重の軽い針葉樹には乾燥しやすい、火がつきやすいという利点がある。